巻　頭　言

加古川市民病院機構　加古川中央市民病院は 2016 年にオープンして以来、東播磨圏域の高度急性期・急性期医療を担ってまいりました。開院時より、当院の運営に格別のご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。加古川中央市民病院は 2016 年の開院以来、600 床の病床で、消化器センター、心臓血管センター、呼吸器センター、こどもセンター、周産母子センター、がん集学的治療センターの 6 つの診療センターを中心に 34 診療科の総合力で高度専門医療、救急医療に取り組んでまいりました。2024 年度は手術件数 9293 件、救急車受け入れ件数 8900 件の実績となり、地域の急性期医療の拠点としての役割を果たしています。また、がん診療連携拠点病院としてがん医療の発展のため、ロボット手術などの高度医療を推進するとともに、遺伝子診療部を充実し、がんゲノム外来の開設をはじめ、遺伝子カウンセラーの養成などがんゲノム医療の体制整備を進めています。新型コロナウィルス感染症の拡大や光熱費、医療材料、医薬品費の高騰、医師の働き方改革など病院を取り巻く環境は厳しい状況ですが、安全で高い質の医療を提供し、地域の皆様から信頼されるよう職員が一丸となって取り組んでいます。また、災害拠点病院として近い将来発生が予測される南海トラフ大地震などの大規模災害に対応するべく DMAT の編成など体制整備を進め、災害訓練を行なっています。

加古川中央市民病院は病院の基本方針の一つに「優れた医療人を育成します」と掲げています。近年、医療は目覚ましい進歩を遂げており、安全で高度な医療を提供するためには多職種の連携と教育体制の充実が欠かせません。当院では病院の機能を担う医療人の育成に努めており、病院のスタッフ数は増加し、診療機能は拡大しています。昨年度は NPO 法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)による臨床研修病院評価の認定を受け、プログラムも一般コースに加えて、産婦人科コース、小児科コースを設置し、多くの医学部卒業生がマッチングに応募してくれています。また、内科専門医プログラム、外科専門医プログラムに多くの初期研修医が応募してくれています。日々の忙しい診療の中で、学術活動を推進するためには各職員やグループがリサーチマインドを持って診療、教育に取り組むことが欠かせません。院内でも TQM 活動を推進し、優れた研究に対して表彰するなど病院をあげて教育体制を整備し、若い医療人の育成に力を注いでいます。高度で質の高い医療を提供し続けるためには、最新のエビデンスを学び、実施した医療の成果を学会活動や論文として発表し、外部からの評価を受けることが重要です。加古川中央市民病院の学術誌は、病院の概要に加えて、その年度の職員の論文発表や学会発表の実績をまとめたものです。これらの成果は、日々の診療に加えて、病院の診療、教育、研究における努力の成果の賜物であり、今後の病院の発展のための指標となるものです。

ぜひご参考にしていただき、ご意見ご指導をいただけましたら幸いです。

2025 年 9 月

加古川中央市民病院

院長　平 田 健 一